

令和 6 年度 第 3 回木更津市史編集委員会議事録

1. 会 議 名 令和 6 年度 第 3 回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 令和 7 年 3 月 3 日（月）～3 月 13 日（木）
3. 開催方法 書面開催
4. 出 席 者 木更津市史編集委員 10 名
成田 篤彦 編集委員長、實形 裕介 副委員長、小沢 洋委員、
石和田 秀幸委員、盛本 昌広委員、大関 真由美委員、駒 早苗委員、
島立 理子委員、安田 貴之委員、佐藤 千明委員
5. 報告事項
第 1 号 木更津市史編さん部会調査等進捗報告
第 2 号 『木更津市史 自然編 資料』の刊行について
第 3 号 『木更津市史編さんだより 第 9 号』発行について

第 1 号 木更津市史編さん部会調査等進捗報告について

委員意見

（實形委員）史料編の刊行に向けて、各部会で、史料調査の遅れが取り戻せているか。事務局の支援体制は充分であるか。また、通史編の原稿料の見直しが必要である。

事務局説明

資料調査の遅れについては筆耕の一部を業者に委託するほか、新たな調査員の委嘱に努めることにより取り戻しを図っています。事務局の支援体制については人員の確保は現状維持という状態ですが、インターネットを通じての大容量データ送受信ソフトやzoomを活用して効率化をしていきます。数か年に渡る計画の中で編さん事業を進捗させていますので対応がなかなかできない場合もありますが、進捗に問題が生じている部会がございましたら事務局に速やかにご相談ください。また、執筆料の見直しについては近隣市町村や規模が類似した市での最近の例を参考にして検討してまいります。

（小沢委員）木更津市内に所在する古墳群ならびに古墳時代の遺跡については、西上総や千葉県域のみならず、全国的に見ても有数と思われる資料が多く、特に請西地区などにおいては一地域の悉皆的な調査事例としても資料価値が大きいものであると考えます。従って考古 1（古墳時代）の頁数の増大と分冊化は必然的な経過と考えています。またこれまで、同じ遺跡群であっても調査年度や事業主体等によって、多いものは数十冊の報告書に分割され、関係者でさえ検索が難し

くなっていた資料が、市史によって一書にまとめられることは、外部の人間にもわかりやすくなり、資料の活用の上からも意義の大きいことであると思います。

それに加えて、これまで公表される機会が少なかった遺構のカラー写真と、新たに撮影した遺物カラー写真の掲載によって、視覚的にもより多くの情報を提供できるようになったと感じているところです。

事務局説明

編集委員会で考古編の分冊化については承認されています。ページ数の増加については予算にも関係しますので、大幅な変更が生じそうな場合は事務局にご相談ください。

（盛本委員）市史研究は紙で出すべきです。また、現地調査の設定の対応を円滑にしてほしいです。

事務局説明

令和5年度の木更津市史編集委員会において、市史研究を含む市史の刊行物は印刷による刊行をすることに決定しております。現地調査の対応につきましては迅速に対応するよう努めてまいります。

（佐藤委員）民俗部会に部会長がいないのは、部会運営をスムーズに進める上で支障となっていないのでしょうか。選出していったほうが良いのではと考えます。

事務局説明

民俗部会の部会長選出については民俗部会委員とともに検討していきます。

（駒委員）今年度の調査は事務局のご尽力により例年よりかなり進みました。感謝申し上げます。ただ史料編刊行が迫るなか、調査半ばで切らざるを得ない可能性が高くなってきました。それ以前の進捗状況の悪さが尾を引いております。非常に残念です。

原稿料の件は各市町によってその他の項目をプラスして合算しているところもあるようですので、原稿料のみに着目せず、予算決算全体を見てご判断された方がより正確な数字が出るのではないのでしょうか？

事務局説明

検討いたします。

（大関委員）複数部会から、編さん作業において部会委員と事務局（事務局を通して業者）との緊密な連絡がとれる体制を望む声が多いように感じますので、大変なことは重々承知しておりますが、ご対応をお願いできればと思います。

事務局説明

対応に努めます。

（島立委員）民俗部会については、来年度今後の方向性を考えたいと思います。

第2号 『木更津市史 自然編 資料』の刊行について

（實形委員）紙媒体での刊行にあたり、紙幅の見直しが必要である。同一の巻を分冊するのは、よろしくない。刊行巻数と冊数が合わなくなる。

事務局説明

現在の形での印刷製本では500ページ程度以上の厚さとなると耐久性の観点から分冊は避けられません。分冊することによる使い勝手の良さについては好評ではあります。

（小沢委員）木更津市史デジタルアーカイブの令和6年度の月アクセス数が毎月コンスタントに4,000件を越えており、関心の高さが窺われます。

（佐藤委員）安定して月4千以上のアクセスがあるが、この数字は多いとみるか少ないとみるのか。いずれにしても貴重なものであると思います。

第3号 『木更津市史編さんだより 第9号』発行について

（實形委員）編さんだよりの執筆依頼を各部会に割り当てて、史料調査の成果をコラムとして書いてもらうことが必要である。

事務局説明

各編さん部会に依頼いたします。

（小沢委員）服部一隆先生の望陀布に関するご講演の記録、内容が多岐にわたり、示唆に富んだご見解、興味深く拝読させていただきました。

（佐藤委員）第9号は発刊されたばかりですが、8号までのものを含めアクセス数がどうなのか資料があるとよい。

事務局説明

木更津市公式ホームページでの公表のためアクセス数はカウントできていません。また、印刷での発行もしています。毎号500部程度発行していますが、残部はありません。

事務局説明

委員の皆様よりいただきました意見等を踏まえ、次年度以降も対応して行きたいと考えております。

上記、令和6年度第3回木更津市史編集委員会の書面開催に伴う議事録について、確認したことを報告します。

令和7年3月13日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 成田 篤彦